用水不足対策

11月

茶

1　土面蒸散を抑えるため、敷草、敷藁を行う。
2　かん水施設があり、水源が確保されていれば、少量でもよいからスプリンクラーかん水する。
3　秋芽が発生している園では樹勢を回復するため、秋整枝を避け、春整枝にする。

野　菜

1　土壌乾燥の防止
　マルチや稲藁等を活用して、土壌からの水分蒸発を抑制する。
2　蒸散抑制
　摘芽や摘葉などを適宜行い、繁茂による過剰な蒸散を抑え、土壌水分の減少を緩やかにする。
3　かん水及び施肥
　限られた水量を使用する場合、一回のかん水を十分に行い、根群全体に水分供給ができるようにする。追肥は液肥を利用し、かん水同時施肥を行うことで、水と肥料の利用効率を高める。

果　樹・オリーブ

1　土壌乾燥の防止
　1)根の多く分布している場所へ稲藁、敷草等を実施し蒸散を防ぐ。
　2)除草剤の利用にあたっては、接触型および吸収移行型を使用し、土壌処理型は使用しない。
2　かん水(節水利用)
　1)細根が多く分布している部分へ集中的にかん水する。
　2)水量が十分確保できる場合は、７～10日間隔で20～30ｔ/10ａを全面かん水する。（ただし、ミカンでの多量かん水は裂果を発生させるので10ｔ/10ａ程度とする。）
　3)水量が不十分な場合は、細根が多く分布している部分へ集中的にかん水する。1樹当たりかん水量は150～200ﾘｯﾄﾙとし、約１週間ごとにかん水する。
3　樹勢の維持および樹体の保護
　1)収穫期を迎えたものは、着果の多い樹から順次収穫を進める。(柑橘、カキ、キウイフルーツ、オリーブ)
　2)着葉数の少ない樹勢衰弱樹は、枝幹の日焼けを防止するため、保護剤を塗布する。
　3)元肥などの肥料は降雨後に施用する。

花　き

1　敷藁、マルチの励行
　マルチや稲藁等を活用して、土壌からの蒸散を抑制する。
2　かん水
　かん水量が不足する場合は、回数を減らしても一回当たりのかん水量を多くし、根群全体に水分供給ができるようにする。
3　施　肥
　限られた水量を使用する場合、置き肥でなく薄めの液肥を与える。
4　土寄せ
　根量を増加させるため、できるものは株元に土寄せし、新根の発生を促す。

畜　産

1　家畜管理
　家畜の飲用水は十分に確保するとともに、衛生対策を確実に実施して、家畜の事故発生と生産性の低下を防止する。家畜の異常は早期に発見し、初期の治療に努める。

1)畜舎環境の改善
①ファン送風の実施、通風の改善
②飼育密度の軽減等
2)飲用水および飼料の管理
①十分な飲用水の確保（貯水タンク設置、飲水器からのこぼれ水防止等）
②畜舎やパーラー等関連施設等で利用する水の節減（除ふんを徹底して、消毒の効果に支障をきたさない程度に節水）
③飼料保管管理の徹底による変敗防止等
④必要に応じ、ビタミンやミネラル等の補助飼料を適正に給与

2　飼料作物

夏作飼料作物の生育不良により、粗飼料不足が懸念される場合には、イタリアンライグラス、エン麦等冬作の作付草種、時期等を調整し、粗飼料確保に努める。